常磐毎日新聞

日刊

一月三十日夕刊

發行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

天氣豫報

今晩は北西風晴一時曇
明日も北西の晴たり曇たり

昨日の烈風中各所に火災
上遠野村廿棟燒く 附近山林も十町歩
十三萬圓を空にした 運轉手のコタツの火

二十九日午後十時半頃上遠村根岸製材業吉野保さん方トラック車庫から發火、地元警防團をはじめ村民並に附近町村警防團が馳せつけ消火に努めたが折柄の強風に煽られ火は見る〳〵うちに延燒、製材工場、材木置場等を燒拂つた上大字瀧字表部落に飛火し遂に十戸二十棟を燒失、火災は更に附近山林に燃え移り杉林其他十町歩を燒いて今朝四時頃鎭火した、原因は同車庫に寢泊りしてゐる自動車運轉手渡邊定美君(三)の炬燵の火からとみられてゐるが損害は十二、三萬圓に達する模様

木炭を盜み廻る 玉突き狂ひ
きのふ平署が檢擧

平署では最近市內に木炭泥棒が橫行するので搜索中のところ二十九日午後十一時頃驛前を徘徊してゐた擧動不審の男を發見檢擧したが取調べの結果錦村中田土工宮城縣吉岡町生れ前科一犯山口虎吉(二六)といひ谷口樓、大貞其他市內の料理店專問に木炭二十數俵を搔拂つた犯人と判明した

同人は玉突狂ひで盜んだ木炭を賣拂つてはこの役用に充てゐたもので他に餘罪あるらしく目下追及中である

野兎皮集荷

獵友會植田支部の射獲した野兎毛皮の第一回集荷は二月三日植田署で行ふ

砂糖一袋宛

小名濱町國婦では舊歳末に當り出征軍人留守宅へ慰問品としてこの程砂糖一袋宛贈つた

二度燃え上る
御台境の山火事

內郷村御台境字御代地內山林から二十九日午後三時二十分頃發火間もなく鎭火したが強風のため午後九時頃再び發火、山崎一男氏所有萱野一反五畝歩、草野昭太郎氏所有雜木林一反歩、草野利夫氏所有松林二反歩を燒拂ひ十時過ぎ漸く鎭火した、原因は列車の飛火らしいと

大野も山燒く

大野村下柳生地內山林からも二十九日午後二時頃發火約一反五畝歩を燒き間もなく鎭火した、損害は五十圓、原因は目下四倉署で調査中である

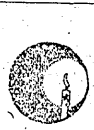
袋の不足 愈よ深刻
お包お斷り

平地方における紙の不足はいよいよ各方面に深刻化し最近では各商店とも袋の品切れから購買者が袋なり風呂敷なりの包みものを持參しない限り品物があつても〃お斷り〃を喰ふほど深刻となつて來たので一般の人々は商店以上に悲鳴をあげてゐる

靜岡への救恤品 今迄一点もなし
平驛では拍子拔け
▽…立板驛長が語る

靜岡の大火に對しては地方の各團體から眞心こもつた義捐金が續々と送られてゐるが一方救恤品の方はといふと極めて僅少であり運賃無料を引受けてゐる平驛取扱ひは二十九日までになんと一件もなしといふ有樣である、右に關し立板驛長は次ぎの如く語り地方民の積極的な救恤品發送を希んでゐる

靜岡大火に對する救恤品發送は鐵道の方で運賃を無料にしてゐるのだから相當澤山扱ふことになるだらうと思つてゐただけに貨物も小荷物も未だ一件も依賴して來ないのには拍子拔けがしてゐるわけです、金錢も勿論大切でせうが、かうした急場の際には米とか味噌とか蒲團とか差しあたつてのものも必要だらうと思ひますから救恤品發送の方にももつと積極的になつてはと思つてゐるんです



探偵實話 桃色の燐寸 (八)
平警察署 喜久地寒

室井に間違ひないといふ確信を得た心算だつたが、〇〇町附近の積雪一丈に近い所を見ると、八十五の爺さんが、こんな雪の會津から中通り、濱通り迄出かけて行つたかなといふ疑問が起きて來て、責任上聊か心配にもなつて來た。

間もなく汽車は目的地に着いたので、〇〇署員の案內で彼の厄介になつてゐるといふ娘の家を訪ねて見ると、正午だといふのに藥罐の樣な頭を布團から半分出して室井は寢込んでゐる。

「爺さん、お前に聞きたい事があつて福島から訪ねて來たよ」

といふと、爺さん齒のない口をもぐ〳〵させながら床に起上つて、何んか枕が氣になるらしく枕を布團の下に入れてしまつた。そして爺さんの言ふことが振つてゐる。

「聞きたいことか話したいことか知らないが、俺ら耳が聞こえなあし、舌もロク〳〵廻らなくなつちやつて駄目だよ」

「そうかい、そいつあ困つたな、きけない口からものを聞くのは此方が無理だ。それじや爺さん枕から聞くことにしよう」

さう言つて爺さんの枕を取出して調べてみるとなんと破藏用の七ツ道具が入つてゐたのではないか。これだけ發見すれば文句はいらない。早速〇〇署に爺さんを同行して調べたが知らん、存ぜんの一點張り、

「道具は仕事やらうかと思つて揃へてはみたが足の不自由な處へこの雪へ、旦那どうにもなりませんよ」

とニヤ〳〵笑つてゐる張合のない調べを何時まで續けてゐても仕方がない。五時の汽車で福島に護送することに決めて、仕度をさせて町に出ると一週間降り續いてゐるといふ吹雪は益々烈しくなつて來た。前科十九犯、人生の殆んど全部を刑務所で過して來たといふ稀代の盜賊小次郎を天は懲しめるかのやうに、猛烈な吹雪が小次郎の全身を包んでしまつた。

「旦那、俺あもうとても歩けない。一寸濟まないが、其處に知り合の女がゐるから休ましてもらいたい、御願えです」

發車時間まで四十分ある、願を入れて知り合の女といふ驛前のそば屋に入つて行くと、粉箱から出た鼠の樣に年甲斐もなく白粉を塗り立てた四十前後の妙な女が現れた。

「俺あ旦那と福島に行くことになつた。お前とも之れが最後になるかも知れない、濟まないが煙草を差入れて呉れないか」

話の模樣から察するに女と爺さん變な關係があつたらしい。煙草を買ひに出かけて行つた女が朝日を五個、それに自分の店の廣告マッチ一個を添へて、濟みませんが御願ひしますと僕の前に差出した。其の時別に氣付かなかつたが、汽車に乘込んでから煙草を一本吸はしてくれといふので、女から預つて來た廣告マッチを取出して一本擦らうとした時、それが血眼になつて搜し求めてゐた遺留品の桃色マッチと同一のマッチであることを發見した。もうこうなつては爺さん、如何に白を切らうとも此方も自信を持つた。胸がワク〳〵して走る汽車も遲い樣な氣がしてならなかつた。

小名濱支局通信

植田役場に古川町長を訪ふ
支局長 小野務平

▽町長の圓滿外交に助役の不愛想外交▽

（中）

古川町長は先町長室で防寒具を解いて事務室に顏を出す、愛嬌ある言葉を殘して再び町長室に戻つた、其間髮を容れずに町長室に罷り越した、ストーブの熱氣を受けてダレ氣味の吾々等は火氣も心細い火鉢一つの町長室に來ては餘りに熱帶と寒帶程の相違で聊か面喰つた次第である、すかさずストーブは入れないですかと言ふと、元來ストーブは大嫌ひ、事務能率にも又國策にも添はない、ではナゼ事務室はと攻擊さるゝ其處が人を使ふ骨の必要な處だケチでストーブも容れぬとあつては古券に係るから自分獨りでも國策にもこの主義を續けて居る、でこの主義に贊成なれば從いて來る者は決して拒みはせないと云ふ處だと、實に己を責むる事嚴人に求むる事は寬大で玆に古川町長の幕僚操從精神が躍動して居る事が充分に伺はれる動物酷使から跡れ上つた者との比較にはならない事を痛切に感銘した。

役場新築は時節柄容易でなかつたのでせうと問へば、町長は昂然一氣にこう語つた、此豫算は十二年に於て決議したもので借款が十二年度で其手續を了すと日支事變に遭遇した、縣廳でも內務省でもこの足踏むで不許可の決心であつた、然し事變突發以前の事でもあると云ふので縣廳や省の方に幾回か足を運んだものだ、處が小名濱町の樣に部下に縣官や省の大官を屁とも思はぬ黑澤某の如き腕コキは我植田役場にはないので何でも彼でも自分獨りで驅け廻り何とか借款成立したのでりういんを下げた、そして先づ漸く此の廳舍が出來揚つたので安神したと語つた。

更に古川町長は町財政の上に就てこう語つて居る、植田は小名濱町の樣に財源となるべきものがないので派手な仕事は出來ない、其處で亦町債も僅少だ、其處に行くと小野君(町長を指す)は威らい無盡的寶庫を開拓する海を相手にあの魚市場と云ふ玄關構へをなして其漁獲の多い事を祈つて居るなどは實に羨しい、然し築港は六ケ敷い是れは技術の問題でなくて資金の問題である。

（續く）

紛糾の玉川村

凄文句を連ねて 前村長を脅迫す
村政革新を表看板の 同志會首謀者を檢擧

平署では目下玉川村某外數名を引致取調べを行つてゐるがこれは昨年十二月十五日村政革新を目的に結成された玉川村「村政革新同志會」に絡む事件で同志會の首謀者が前村長駒木根忠三、農會長村議遠藤喜三郎兩氏に對し汝等の身邊を襲ふ近きにあり、流血の慘事を見る事あるべし、玉川村にも中岡良一あるを知れといふ意味の脅迫狀を送つたものらしく事件の進展は各方面から注目されてゐる

國魂の改築

勿來町窪田鎭座郷社國魂神社は紀元二千六百年を記念し工費二萬三千七百圓を投じ改築することになり工費の寄附募集を縣當局へ申請中であつたがこの程許可されたので近く着工することになつた

自轉車上の反物 二百五十圓盜る
一方は洗濯屋さん 衣類を自轉車諸共
最近は同樣被害が頻々

神谷村大字鎌田呉服行商村上武二さんは二十八日午後八時半頃平市仲田町平撞球場前で自轉車に積んでおいた絹布類二百五十圓分及び現金二十五圓を何者かに竊取され青くなつて平署に屆出たが同所では六日程前も同時刻に平市古鍛冶町永山洗濯店主が銘仙衣類を自轉車諸共竊取された事件があり最近同樣の被害事件が頻々とあるので同一犯人の仕業とにらみ平署では必死の搜査陣を張つてゐる

出所早々無錢飲食

渡邊村田部永山治雄(二七)は植田町番所下料理店叶屋事瀬谷清次郎さん方で十餘圓の無錢遊興をしたこと發覺二十九日植田署に檢擧され早速平檢事局に送られたが同人は前科二犯を有する強かもので水戸刑務所を出所したばかりである

勿來町葬

既報、河南省寧陵縣子庄附近の戰鬪で名譽の戰死を遂げられた勿來町出車根岸光雄上等兵の町葬は三十一日午後一時から同町小學校で執行される

柳內上等兵
遺骨故山へ

既報、小名濱町出身柳內重明上等兵は中支戰線で名譽の戰死を遂げられたがこれが英靈は二月一日泉驛着午後一時九分で聲なき凱旋をする

綴驛に遺骨

既報前線で散華した內郷村出身梅藤正雄騎兵伍長の遺骨は二月一日綴驛午後零時五十分着で聲なき凱旋をする

愛谷江組合 議員當選者
七名を改選

既報平、夏井、飯野、高久、豊間の一市四ヶ村の愛谷江筋水利組合議員十四名のうち七名の改選は二十八日各市村で執行されたが當選者左の如くである

△平市三一草野七五三之助、一四松崎長太郎七猪狩彌作 夏井村二九鶴沼治兵太 飯野村三二伊藤淺之助、一九中田松源次

本縣代表で 永野君出席
傷痍軍修養會へ

傷痍軍人會本部では傷痍勇士達の身心修養をはかるため二月十、十一、十二の三日間奈良縣畝傍町久米寺內護國道場で肇國精神顯揚傷痍軍人修養會を開催するが地方からは平市掘小路步兵上等兵永野孝夫君が本縣代表の一人として選拔された

平染物の加工組合
認可の指令

平市並に石城、双葉兩郡下の染物業者は打つて一丸となり平染物加工業組合を結成することになり過般來縣に申請中であつたがこの程認可の指令に接した

同組合は原料配給不円滑から業者が窮迫に瀕したので原料の共同購入、生產品販賣、各種作業等の經濟的な共同施設をはかり操業難を克服、新生面を拓かうとするものである

小名濱から
靜岡義捐金

靜岡市の大火に同情した小名濱町でも愛國婦人會や國防婦人會の共同活躍で金五十圓を醵金し此程町役場を通じて寄贈方を了した

錦村慰問袋

錦村ではこの程滿洲行七十一個、支那行七十五個の慰問袋を發送した

銀紙の献金

水戸村合戸小學校兒童は銀紙を集めて賣つた金五十錢を今三十日平署を通じ國防費に献金した

平市人事

◎出生
△禰宜町一二鈴木榮太郎氏三男昌夫君
△紺屋町五五水竹淸一氏長男稔宣君

◎婚姻
△紺屋町五五水竹淸一氏(三八)と飯野村大字上荒川字島田七二五ト嵐ノブイさん(二八)

◎死亡
古鍛冶町三一宗助氏妻岩泉ノブ子さん(二三)

歸鄉御挨拶

謹啓 時下嚴寒之候益御清適ノ段奉賀候

陳者小生今事變頭初應召以來〇〇陸軍病院外科勤務中ハ公私共多大ナル御高配ヲ賜リ大過ナキヲ得常ニ感謝仕居候

今般不圖モ召集解除ト相成歸鄉仕候就イテハ今後銃後ニアリ一層勉勵仕心組ニ御座候間何卒倍舊ノ御鞭韃ヲ賜リ度玆ニ謹ミテ御挨拶迄如斯御座候

敬具

昭和十五年一月三十日

平市南町 上田耕作

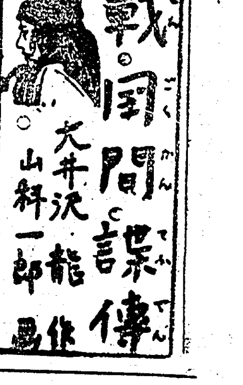
ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間 物語「黃河の水」永持德一
▼後六、二五 講演「科學のトピック」理學博士坪井忠二
▼後七、三〇 國民歌謠
▼後七、四〇 講演「ポーランドを中心とする歐洲の政情」特命全權大使酒勾秀一
▼後八、〇〇 浪花節「復讐の銘刀」松風軒榮樂
▼後八、四〇 青年の時間「新東亞の建設と青年」工學博士加茂正雄
▼後九、〇〇 十分間演藝
▼後九、一〇 ピアノ獨奏 レオニード・クロイツアー

明日の部

▼前九、四五 幼兒の時間 童謠物語「アシナミソロヘテ」東京明治幼稚園兒 堀旺宏發表
▼前一〇、一〇 家庭講座 醫學博士山本杉
▼後〇、〇五 謠曲「安宅」海若景英
▼後三、〇〇 婦人の時間（京城より）
▼後三、三〇 教師の時間「小學校における武道教育」文部省體育官甲佐知定
▼後六、〇〇 子供の時間（錄音と解說）一月中の出來事
▼後七、三〇 國民歌謠
▼後八、〇〇 朗讀（京城より）志願兵の戰死
▼後八、一五 浪花節「さめざめ街道」廣澤虎造
▼後八、五〇 俚謠、西宮リキ他
▼後九、〇〇 連續小說「石狩川」本庄陸男作 汐見洋外



戰國間諜傳
大井沢一龍作 山科一郎畫

第百六十七回

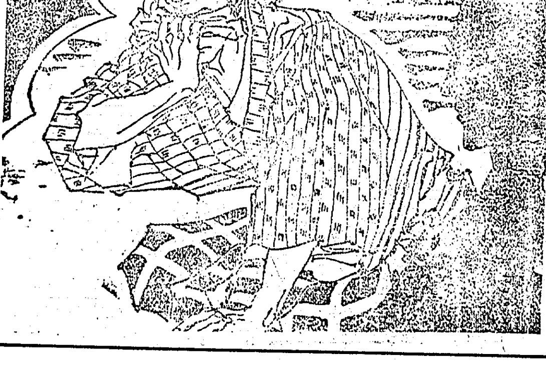
悲しきしらせ (五)

「金兵衛これればかりは、そなたが如何樣に身をかばうてくりやれても、所詮無駄なこと、もはや生命は無いものと覺悟の上ぢや、止めてくりやるな」

「まゝまお待ちなさりませ。ことはよく說諭した上で事をなさらぬと、元も子もなくするやうなつまらぬ目に合ひまする。貴女樣が名乘つて出たために御三人の生命が助かるのでしたらよろしふござりまするが、なか〳〵とすい彼らのこと、どの樣なつまらぬ目に會せぬとも限りませぬ」

金兵衛にさとされて今度は橘も坐り直し

「それもさうぢやのう。あまりに悲しい報せを受けし故、ついかつとなつて前後もわきまへず一途にかけつけるつもりでゐたが、[illegible]の



ために、彼らが無事に助からねば役のないこと、たかお[illegible]きの日も近いとの事、一時も早う自首して出なければ、とりかへしのつかぬ事になつてもいけぬ」

「しかし世に云ふた大の虫を生かすために、小の虫を殺すと申すこともござりまする。貴女樣にしても御忠義のためになされたこと、彼らとて決して恨み居る者とは思ひませぬ」

「いや金兵衛、もう云ふてくれるな、もはや生き永らへても惜くない身、皆の者らの爲につくしてくれた人の命を助けるために、今度は妾がギセイになるのはあたり前のことぢや、忠五郎承知の上で許してくれやろうが、彼の二人には何も知らぬ事、なほ更助け申さねばなりませぬ」

堅い決心を見せた彼女に、金兵衛も仕方なく

「それではもはや御引止め致しませぬ。それがしも供々參り、何處までも貴女樣の御道を御見屆けいたす所存でござりまする」

「いや〳〵金兵衛、そちには又賴みがある。妾が、名乘つて出れば其の後にてそなたは、その時こそ叔父上のところへ參り、妾の[illegible]であつた[illegible]させておくれ。それからは[illegible]今上の[illegible]ぢや」

「ハイ、畏まりましてござりまする。たとへこの身が砂利となりませうとも必ず目的を遂して見せます。何卒御心配なされますな」

金兵衛は堅く後のことを引きうけた。

其處で金兵衛と三人で水盃をして別れたつげ、涙ながらに暇乞ひをすると、彼女は忠五郎の捕へられてゐる町奉行へ駈込んだ。

その姿をかげながら見送つた金兵衛は、去り難き心に後を引かれてしほ〳〵歸つて行つた。

それからは彼の一生涯の上にかける最大の難所にぶつつかつて、橘の命令通りに目的に進んだ。しかしどうかして彼女を助ける道はないか、何時かの間に脫牢して逃れ出すことはいと易けれど、それでは今度の目的に叶はぬ、橘の一念を通さすことは、即ち彼女を助けることだと悟つて、必死になつて運動を始めた。

橘は出る前に、三通の手紙を認めて金兵衛に渡して行つた。それは、一つは叔父伊豆守信[illegible]に、一通は千姫に、後の一通は刑部卿の局に宛てたものであつた。

この三通の手紙を利用して――それは橘の命令であり、かつ[illegible]のための寺を建ることゝ――が賴んであつたのだが、主人を死地から救ひ出すのには唯一つの方法、これを差し出して三人を動かすより外無いと思つた。

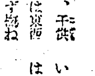
伊豆守はさすがに骨肉の間柄、如何に主殺が違ふとは云へ、元をたゞせば忠義の一念から出た故のこと。ことにか弱い女の身で、あらゆる艱難苦心の數々をつくした及んで、心を動かし

「自分一存では不可能でもどうすることも出來ないが、千姫さまの方へ內々手を廻して救解の道をひらくべく努力しやう」

と約束してくれた。金兵衛の忠烈なる精神には、伊豆守も感動させられたのだつた。

育兒の遊び

宮内千代



育兒、子供の教育に[illegible]時間は[illegible]母親の仕事であり責任であるやうだ

家庭にあつて朝夕食事から[illegible]世話になつて、母親の子供にとつては、母親の膝は其の子の全生涯を指導する原動力となると云つてもよいであらう。日本婦人はとても子供を可愛がる、子供をいたいけな、か弱いものとしていつも自分の慈愛の泉の中ではぐくんで行く。

西洋人だつてもちろんかあいがる。しかし扱ひ方は大いに異つてゐる。ドイツでは「尻打をくわねば子供は成人出きぬ」と云つてゐる。

母親が目を見すえて二つ三つの子供を本氣で叱りつけて、ピシヤリと尻打をくわせるのを見ると、只々[illegible]の慈愛に甘つたれておゝきくなつた私共はびつくりするほどである。

ドイツ婦人は私に眞顔でたづねた、「日本婦人は子供を[illegible]に背負ふ。かほがいつもかしいでゐる。三千年[illegible]が常に不正な位置におかれて育つたら次の空中戰の時代に勝利を得られようか」と。

聽覺と空中戰、考へれば重大な事のやうに思へる。私は生れたこの赤ちやんを背負つてきた日本の母親にそれとなく注意した。

「大事な赤ちやんをどうして車なんかにのせて押てなんかゐられませう。かうして肌身につけておけば安全です」と、そのお母さんは[illegible]に母の眼を母性愛にかがやかせるので私はもう一言も出なかつた。

……食卓には必ず海苔一枚……

營養的に活眼を開いて家庭食を充實せよ

量の不足はこれで補ふ

ヨーロッパでは食糧なども非常に統制されてゐますが、日本はさすがに[illegible]國、食品には未だ充分の餘ゆうをもつてゐますが、食品の方ももつと營養的によいものはどしどし私達の食へとり入れて體位の向上を計りませう。[illegible]米は[illegible]で海藻に惠まれてゐますがこの内の海藻類などは[illegible]利用いたしませう、お話は理研の鈴木梅太郎氏です

四面海をめぐらしてゐる日本もつともつと海の寶にめをつけこれを利用しなくてはなりません、この海の寶と云[illegible]にいろいろものがありますがまづその一つとして海藻のことを申し上げませう、海藻は從來[illegible]をとるのに好都合であるといふので利用せられたのですが、これが只今やかましいヴイタミンB二の複合體がたくさんふくまれてゐるのです、海岸方や湖水地方から[illegible]の丈夫な人たくさんでてゐるのもかうした海藻を利用してゐるからであると思ひます

さて、水洗ひした白米に、澱粉と脂肪と無機鹽類を加へた基本飼料に、肝油か酵母だけを加へて飼つてみますと

●…動物は 顯著な發育がない、[illegible]週間か五週間で死んでしまひます、つまり基本飼料に肝油を加へたものはヴイタミンAとDを補充するためでありますが、そこで第二號としてこんぶの粉末を加へてあたへるとどんどん成長します、これが十五週間くらいたつと[illegible]死んでしまひます、かういふ結果から[illegible]して今度はこんぶのほかにヴイタミンB群をたくさん含んでゐる[illegible]を加へて育てると[illegible]

他のワカメ、カジメ、ヒジキ、アラメ等にかへて試驗してみましたが、いづれもオリザニンを加へてあたへてやるとこんぶと同じやうに元氣に發育しましたつまり以上の結果からしてすべての海藻類には

●…豐富に ヴイタミンBがはいつてゐることが判るのです、そこで若い大人が一日に六百グラムの白米をたべるとすると一般にいつてゐる海苔一枚、昔ならば十三、四枚たべなくてはならないことゝなるのです、しかし最近は白米がとりやめとなり七分搗となつたのですからその中にもヴイタミンがありますし、このほかの副食物にもヴイタミンがありますが、これらの缺陷を補ふために一日に一枚の海苔は絶對に必要であると思ひますだからごはんのときには毎日海苔をやいておいて、かけてたべるとおゝいに體力向上の役に立つと思ひます、この點から云へば海苔ののり卷きやのりむすびなどをつかひになるのは大いに結構なことだと思ひます

●…我國では 海藻類は一般に十八百萬貫もとれ、こんぶはその内の六割にもなつてゐますから海苔ばかりでなくこんぶ、ワカメ、カジメ等の海藻類をおゝいに利用されたいものです。但し海藻類は消化がわるいものですから海藻は粉末にするとか、うすくけづるとか、やわらかく煮るとかなさつていただきたいと思ひます「體位向上には海藻から」であります

……小ばなし……

母親、古い着物を仕立て直して、「この着物は菊五郎と同じなんだよ」「こんなボロ〳〵の着物がかい」「そうだよ、おぢいさんからお父さん、それに兄さん達が着て今度はお前で丁度六代目だよ」

肺炎にきく辛子の濕布法

命取りの肺炎がこれから多くなります、肺炎の初期にはからしを胸部にはりつけると効果があるものです、その方法はからしをかいて泥狀にして布にあつくぬり、その上にガーゼあるひは紙（半紙）などをあてゝそれを胸とか背とか、心臟部にはりつけるのです。そして十分、廿分とたつて皮膚があかくなつてきたらからしをとり、しぼつたタオル等であとをよくふきとります。このとき時間を過ごすと皮ふを刺戟しすぎて水疱ができたりしますから注意を要しますもう一つの法はからし粉を五グラム乃至十五グラム熱湯の中にいれてかきまわし、これで濕布を浸しぼつて胸部にあてます。すると二、三分で皮ふがあかくなつてきますから普通の温濕布に代へます

醫學博士 山本杉氏

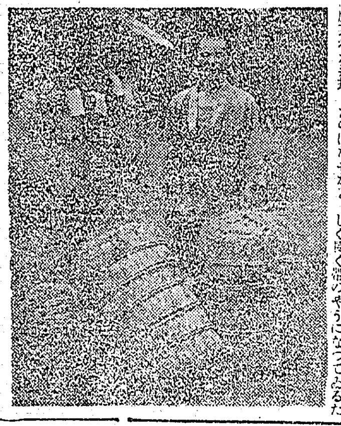
歸還

二年ぶりで夫が戰地から歸つてまいりまして、やれ〳〵と思ひました

なんだか戰線のやうでもあるし、こそばゆい妙な氣ぶんですわ

「死んだ氣で働くんだ」と、いつて夫は毎朝早くおきておせんべを燒いてゐます。その後すがたを見るとなみだがでそうですわ。え、うちはおせんべ屋なのです

北の米は軟か南の米は硬質



白米の搗き加減はともかく七分搗度といふことに決定したがこゝに胚芽米が選擇したのはなぜかといふと[illegible]ないといふ點があるためである、日本は御承知の通り南北にすばらしく長く帶のやうになつてゐるために、氣候風土が南北によつて甚しく相違してゐる、それがため南部の米は硬質だが、北部の米は軟質である、そこで南部の米は精白する機械で北部の米を精白すると胚芽の胚芽が皆とんでしまふさうなると白米となつてしまつて賣れないといふことになる、どうしても機械を取かへて使ひわけをしなくてはならぬといふことになる、そこで、機械の相違といふことが原因とすると七分搗きで納まることになる

[illegible]いふ一例がある、胚芽米はなるほど理想的なものには間違ないが、現在の機械では胚芽米がこれに[illegible]

どうして治すか

口を開けて眠る癖

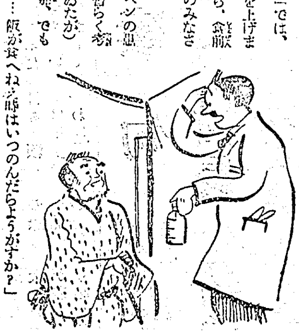
これは大人にもみる現象ですが、夜、睡眠中に口をあいてゐる子供は割合に多いものです、これには二つの種類があります。

先天的なものと後天的なものがこれで、そして先天的なものゝ一つとしては、あごの骨が大きあるとか、或に唇が小さすぎるとか[illegible]

[illegible]ものとしては、扁桃腺肥大のためまたは鼻の病氣からくるもの、歯ならびの悪いものなどがあります

後天的にくるものは、その原因となつてゐる病氣を治療すれば治りますが先天的の場合は、口の教育で口をあけ[illegible]にする[illegible]があります[illegible]

飯が心配



無醫村診療所で——。

醫者「では、水藥を上げますから、食前におのみなさい」

ルンペンの患者（暫らく考へてゐたが）「旦那、でも その……飯が食へねエ時はいつのんだらようがすか？」

大切なお乳選び

貰ひ乳で育てるお母さんの爲に

折角無事なお産のあとに、母乳が思ふやうに出ないで困る婦人は中々多いものです、赤ん坊にとつても母乳は何よりの營養ですから、もし乳母をやとひいれるなり、また近所の知り合の母乳のでる婦人からもらひ乳をする事ができれば人工營養で育てるよりは何かにつけて赤ん坊の發育のため好都合です

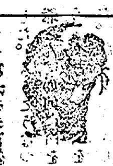
・乳母の健康

しかし貰ひ乳をし、また乳母をやとふ場合、その婦人が果して眞に健康であるか、どうか、梅毒や結核はないか等は重大な問題となります。乳母をえらぶ時はワツセルマン氏反應その他の科學的方法で[illegible]否を定めることができますが、折角の好意で知合の婦人からもらひ乳をする時には、かうした方法をとるわけにはゆかないものですこの場合しかし相手の婦人の健康狀態、及びその子供たちが健かに育つてゐるかどうかの婦人の觀察でもつて大部ちがひなしにすま[illegible]

[illegible]母乳の保存[illegible]もらひ乳する場合[illegible]いくら近所でも[illegible]時間をしぼつてもらつて歸ること[illegible]が多いでせう、この際もらつてきた乳がどれ位腐敗せずに保つておけるかを知ることはきわめて大切です。もし乳母にあたる婦人の乳首をしぼる前に、アルコール類で消毒し、そして入れ物をよく消毒しておけば、そして入れ物を冷藏庫なり冷暗所に貯へておけば半日は十分に保つことができますそれより長くもたせるには[illegible]のやうにご飯蒸しで短い時間[illegible]あて、そして入れ物のふたをとらなければ一日は十分保ちます、かうして[illegible]してもらひ乳をあたへる場合にも一回分だけとり餘ぶんのものを不潔にしないやうに注意し安全な貯藏をしなければなりません

小說 [illegible] 進士別樹

北[illegible]野丁 傳画



（禁上演映畫化）

[illegible]六百三[illegible] 病め年（三）

[illegible]

「これに[illegible]いた」「僕はそんな人間じやありません、僕が二人ゐるのですが、[illegible]があつて時々[illegible]をしてゐるので、時々用ひますのです」

[illegible]聞かれてゐる二人の[illegible]してゐたのである。

由紀が、[illegible]を[illegible]べて歩いてゐるのが、街には何となく[illegible]ゆくてならなかつた。

月が上て街が次第に明るくなつた、歩道の人影がチラノーと動いてゐる。

「[illegible]の時代は面白いんですが、[illegible]すよ、どうしてですか」

[illegible]

[illegible]罪のあるやうな、無いやうなとよく似てませんわね」

「由はおきませんね、此所は面白いなんて[illegible]のもちやありませんよ、文字通りの山男ですからね」

「ちや當り この頃ずつと[illegible]ない？ お好きの[illegible]に入れて頂いて上げるわ」

由紀子は眞剣にさう云つた。

「へへへ……[illegible]勸めですか、山男が[illegible]勸めをする時は病氣でもなつた時でせうかねハヽヽ…」

「まアひどい」

彼女は呆れてしまつた。恐らく彼女が聞いた。顔が妖しい迄にキラ〳〵と眼色に光つて、[illegible]が[illegible]のやうに顫えてくる。

「こちらには何時頃迄いらつしやいますの」

由紀子がきいた。

「さう…すね、この夏を一つ勉強しなければならないから八月中はこの邊だらう〳〵してゐますよ」

「僕は、三角山から天城山へかけて、[illegible]の調査をするのだが、この邊にもまだ[illegible]しいことなどを[illegible]してから」

「[illegible]今年中は[illegible]いと思つてゐるのですよ」と言つた。

「でも何だか隨分と離れてゐらつしやるやうでしたから」

「ハヽヽ……僕は無愛想ですからね、[illegible]のホテルなどはどうも勝手がわるいですが、宿屋だつたら、まるで自分の家のやうに思へますよ」

「まアあんなこと、でも方々お歩きになると隨分[illegible]なこともあつたでせうね、そんなお話を今晩何かせて下さいません？」

「何れ折をみて話しませう」

二人の後から誰かついて來るやうな氣がして由紀子は一寸振返つてみた、そして思はず、ハツとした。

白い背廣に、ハンチングを伊達に冠つた男が[illegible]らしいのが二人、何か小聲に話きながら、由紀子達の方をジロ〳〵見てゐるのが、月の光に照し出されてゐる。

「さや君は、この邊で[illegible]しませう、何か用事があつたら又また」

彼女はそれには答へずツツと歩いて[illegible]いた。

「何から變な人がさつきからつけてゐますの、わたしとても怖くて一人では歸れませんわ」

「どこ、どんな奴です」

[illegible]がないやうに、[illegible]

平病院（電六四二番）
平市警察署側（元共濟病院跡）
院主 醫學博士 鈴木定藏
院長 鈴木定藏
副院長 土井利明
副院長 高橋俊幸
院長 鈴木定藏
部長 吉本孝平
内科・外科・小兒科・皮膚泌尿器科・レントゲン科・物理的療法科・婦人科・藥劑科
◎診療時間 毎日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）（急患ハ此ノ限リニアラズ）
往診隨時
病室完備 入院隨時（自炊ノ便アリ）
入院料 一日 特等貳圓・一等壹圓五拾錢 二等壹圓參拾錢

家傳 安流丸
梅毒と たい毒 吹出物に はれものは 安流丸 に限る
阿部藥舖 平市田町

シモヤケ家傳藥
是までシモヤケは暖かくならねば治らぬものと諦めて居つたのが一日二三回の御使用でクヅレたシモヤケも忘れたやうに完全に治ります。
現今の塗藥は異つた製法により根本から除去するものであります。シモヤケは寒さの爲になるもので塗藥では決して治るものではありません。又クヅレたシモヤケに塗布と同時に痛みを感じたりカユミを増したり致しますが、此藥は無刺戟の中に心地良い製法により皮下の血行を良くし幼きお子様方にも喜ばれ如何にクヅレたシモヤケでも完全に治る事保證致します。
〔定價四十錢〕
東京市丸井邦賓堂
茨城福島兩縣特約販賣 平市一丁目（電話三四〇番） 伊藤石炭店

外科内臟外科 X光線科 院長 安齋徹
—新設— ▽入院隨意△
平市田町 安齋醫院 電話四五七番

産科 婦人科 專門
平市南町 根本醫院 （入院隨時） 【電話三四番】

花柳病科 外科
木村外科醫院
平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

メガネは！
平市二丁目 玉屋

干やなぎ と〝美味〟しい みりんぼし
『鰹節製造販賣』
魚問屋
平市四丁目（電話二一三番）
志賀盛榮商店
日本生命平代理店

齒科口腔外科
レントゲン科
院長 東京齒科醫學士 原精一
電話三一番 平市土橋通
原齒科醫院

▽是非！
御融通には御用命下さい萬事便利な御相談に應じます
公債、債券、質物一般
三井質店 平・四 電話六〇六番

◇和文歐文タイプライター
◇最新事務用品類
◇文房具一式
◇製圖並に測量用品
◇謄寫版並に附屬品
東邦タイプライター代理店
東邦タイピスト養成所
平市田町銀座街
藤森 電話三七〇番 振替仙臺一五〇一番 （藤森事務用品商會）

たひら正宗
芳醇！ 美味！
山崎合名會社 電話一〇番

御婚禮御着附
パーマネントウエーブ
和洋結髮 オゾン美顔術 御染港洗毛 御爪美術
◎御婚禮用の〝かつら〟も御座います。
平市驛前 水野化粧院 電話六七八（營業所） 五二五（自宅）

かまぼこ 竹輪 製造
お惣菜用、さつま揚、吉原揚……
天保屋
平市一丁目 電話一四一番
◎配達員至急入用委細面談